変わりつつある学校教育について

西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議

2020.07.31（金）
ドウジアム

萩博物館蔵

学校教育の目指すもの

- どのような時代となるのか
  （どのような状況となるのか）

- そこで生き抜くために、子どもたちに
  どのような力が必要となるのか

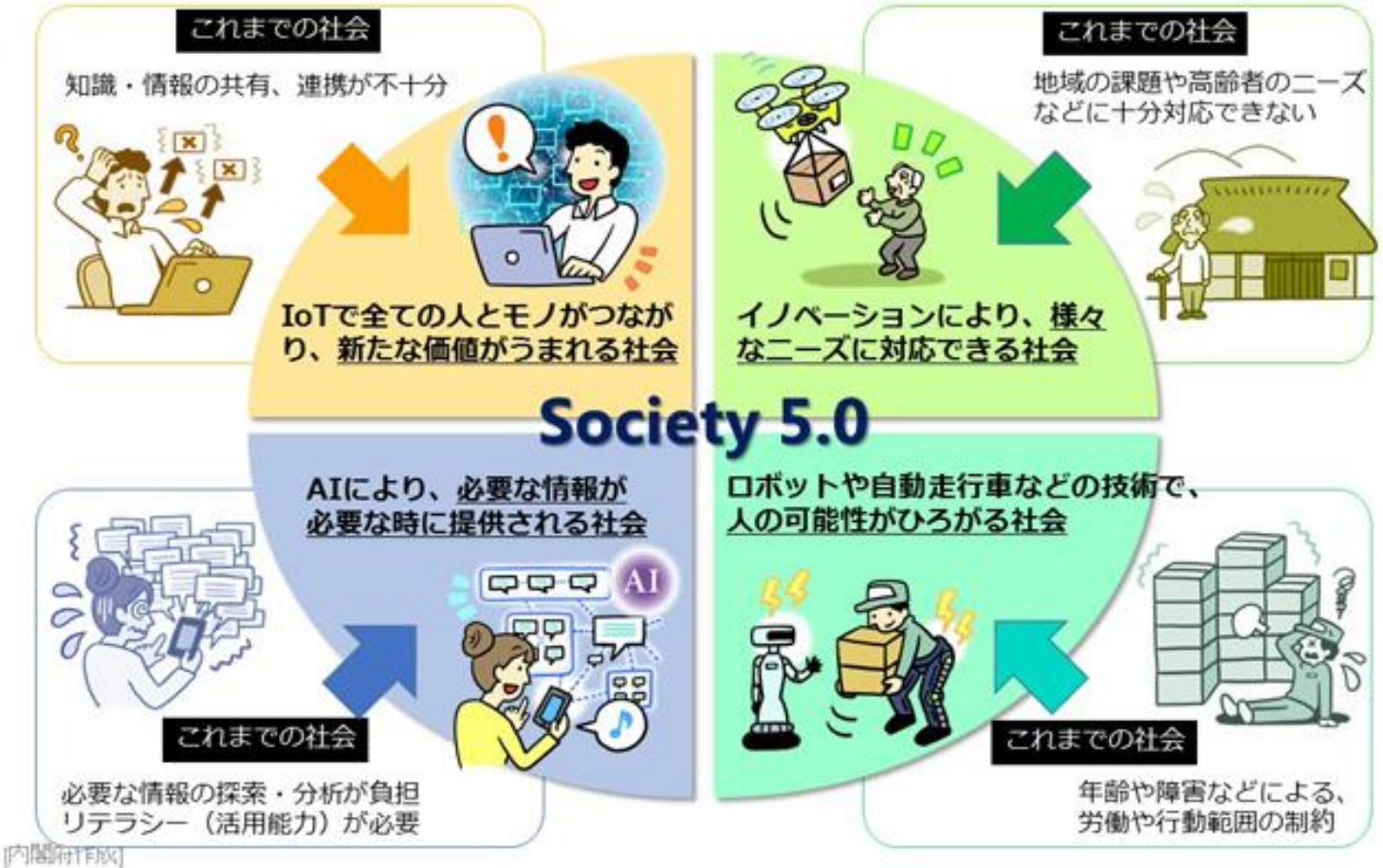
- どのような教育が必要となるのか

- どのような学校であればいいのか

Society1.0 狩猟社会　　Society2.0 農耕社会

Society3.0 工業社会　　Society4.0 情報社会

Society5.0 超スマート社会



【Society5.0における学びの在り方の変化】

○一斉一律授業の学習→個人の進度や能力、関心に応じた学びの場
○同一学年集団の学習→異年齢・異学年集団での協働学習
○学校の教室での学習→教育文化施設等も活用した多様な学習プログラム

【Society5.0における学びのなかで求められる力】

●文章や情報を正確に読み解き対話する力
●価値を見つけ生み出す感性と力
●科学的に思考・吟味する力
●好奇心・探究力

【Society5.0において社会を牽引する人材】

◎技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材
◎技術革新と社会課題をつなげプラットフォームを創造する人材
◎様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材

これからの西脇市

つながり　はぐくみ　未来織りなす
彩り豊かなまち　にしわき

未来を拓く次世代が育まれるまち

①結婚・子育て・出産の希望の実現を支援する。
②子育てにやさしい環境をつくる。
③子どもを守る仕組みをつくる。
④就学前教育と保育を充実する。
⑤学校教育を充実する。
⑥教育を支える環境を整える。

新学習指導要領の理念

「社会に開かれた教育課程」の実現

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有する。

地域による学校の「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」へと発展させていく。

社会に開かれた教育課程とは

①教育課程を通して社会を創生する目標を実社会と共有

②子どもが人生を切り拓くために必要な資質・能力の明確化

③実社会と共有・連携させながら学校教育を実現

学習指導要領改訂の方向性

①資質・能力の３つの柱の育成
②主体的・対話的で深い学びの実践
③カリキュラム・マネジメントの構築

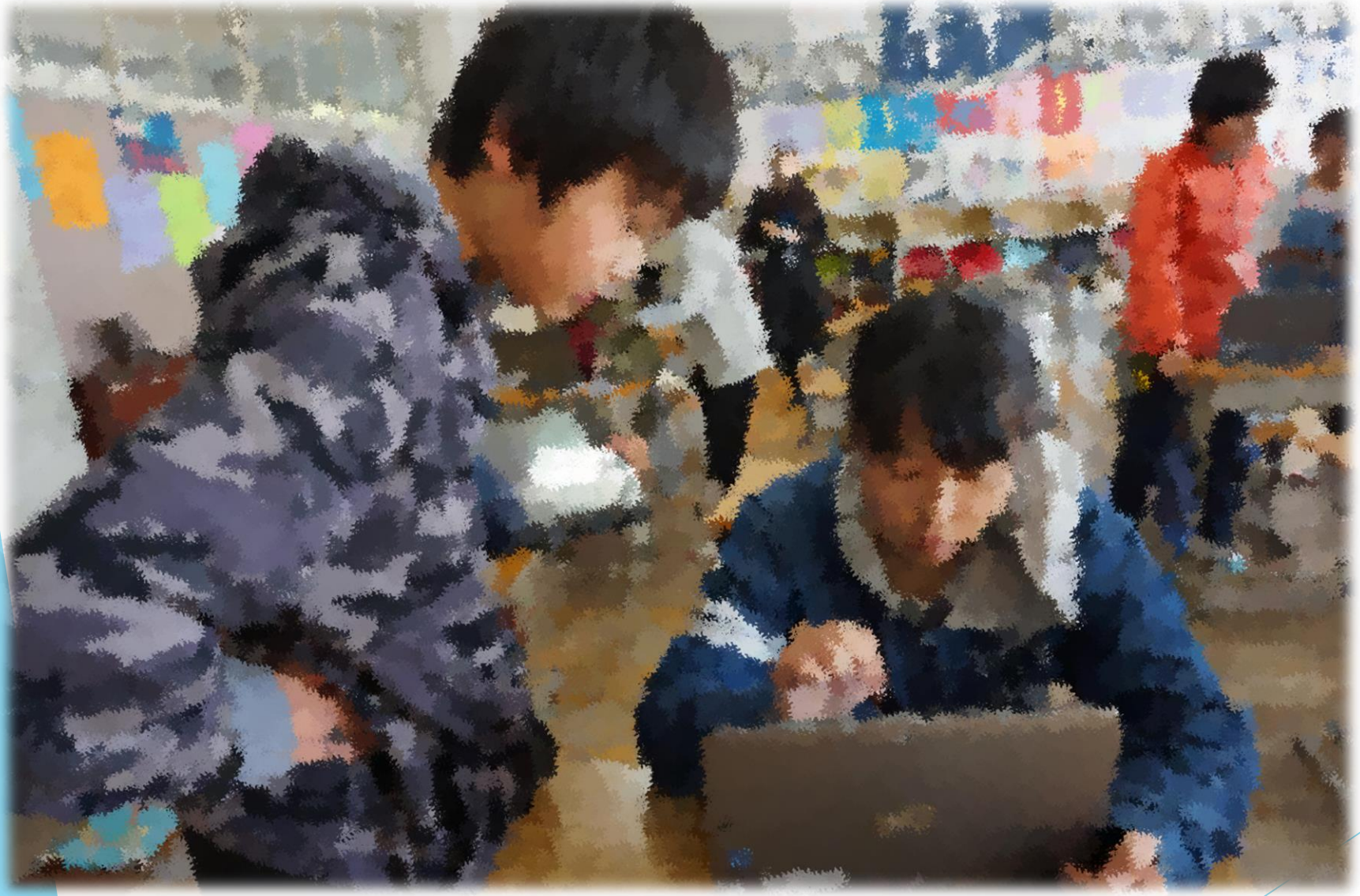
資質・能力の３つの柱

①知識・技能
②思考力・判断力・表現力等
③学びに向かう力・人間性等の涵養

主な改定内容

- 小学校３・４年「外国語活動」、５・６年「外国語科」導入
- プログラミング教育の実施（小学校）
- 「特別の教科　道徳」の実施
- 学習評価が４観点⇒３観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）
- 特別支援教育の充実（個別の教育支援計画）
- キャリア教育の充実（社会的・職業的自立に向け小学校から位置づけ）

情報活用能力



外国語

「使える英語」をめざして

授業づくり

ＡＬＴの活用

GTEC

英語検定補助

小学校における教科担任制への動き
（令和４年度を目途に小学校高学年からの教科担任制をめざす）

①　教科担任制の例　６年４学級　担任４人（ABCD）専科２人（EF)の場合

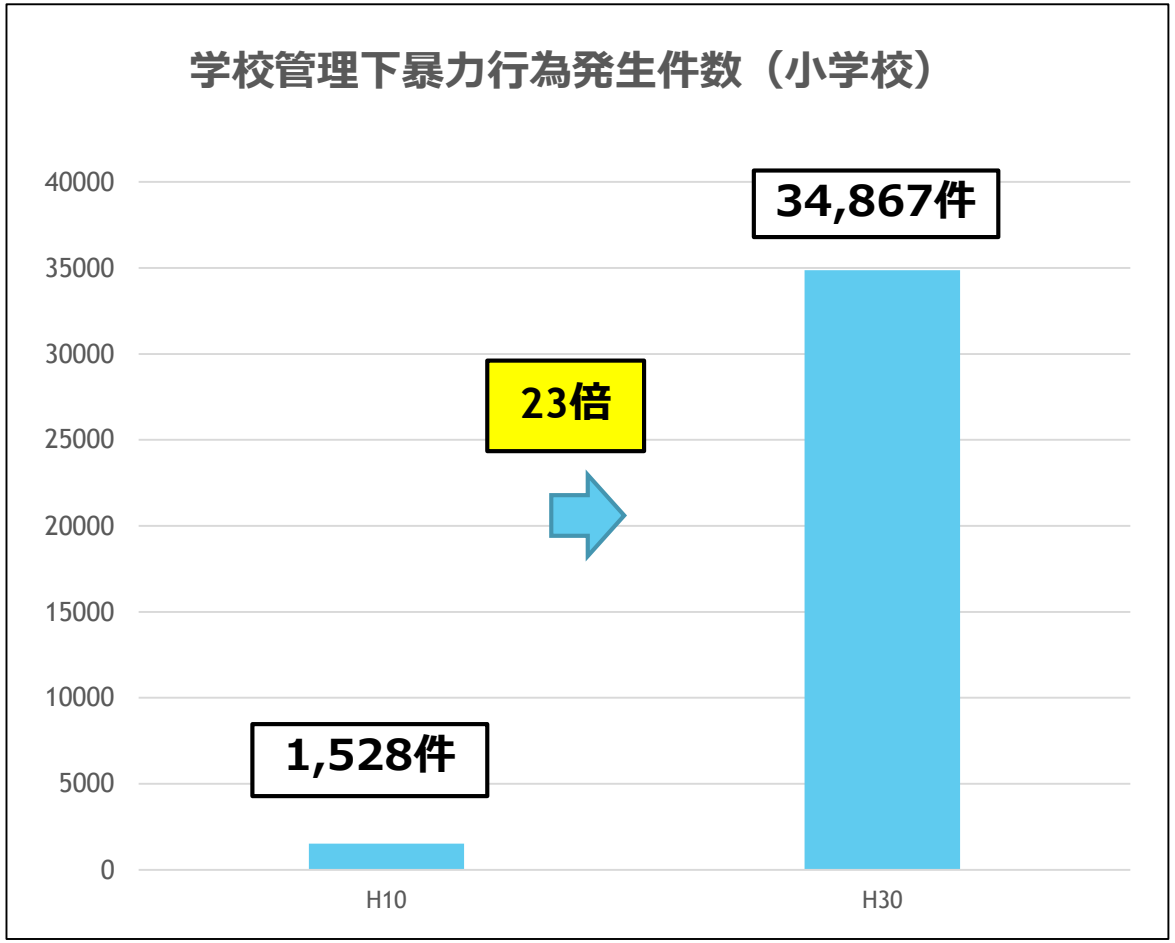
学級	国語	算数	理科	社会	外国	音楽	家庭	体図	道学
１組	A	C	E	A	A	F	F	A	A
２組	A	C	E	B	B	F	F	B	B
３組	B	D	E	C	C	F	F	C	C
４組	B	D	E	D	D	F	F	D	D

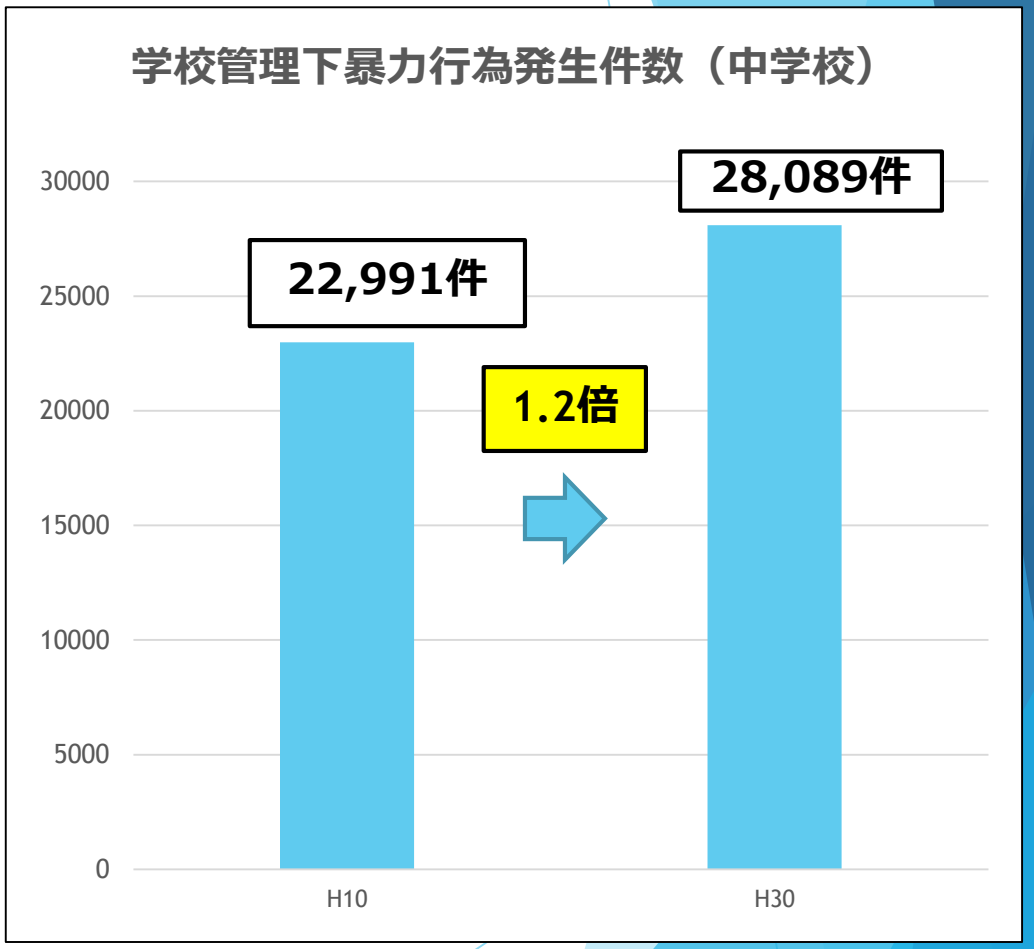
４人の担当は、国語・算数を分割して担当する。
但し、この例では国語・算数のいずれか１つと理科・音楽・家庭は指導しない。

②　教科担任制のメリット・デメリット
＋専門的で質の高い教育が展開可能（担当教科に専念　教員の専門性高める）
＋担任の専門性や指導力の差を緩和　・教員の負担軽減（教材研究等）
＋担任と児童との相性　複数の教員の視点・手法・関わりが担任に余裕を生む　等
－教員数が少ない場合　教科担任制の円滑な推進が困難

学校における新たな課題

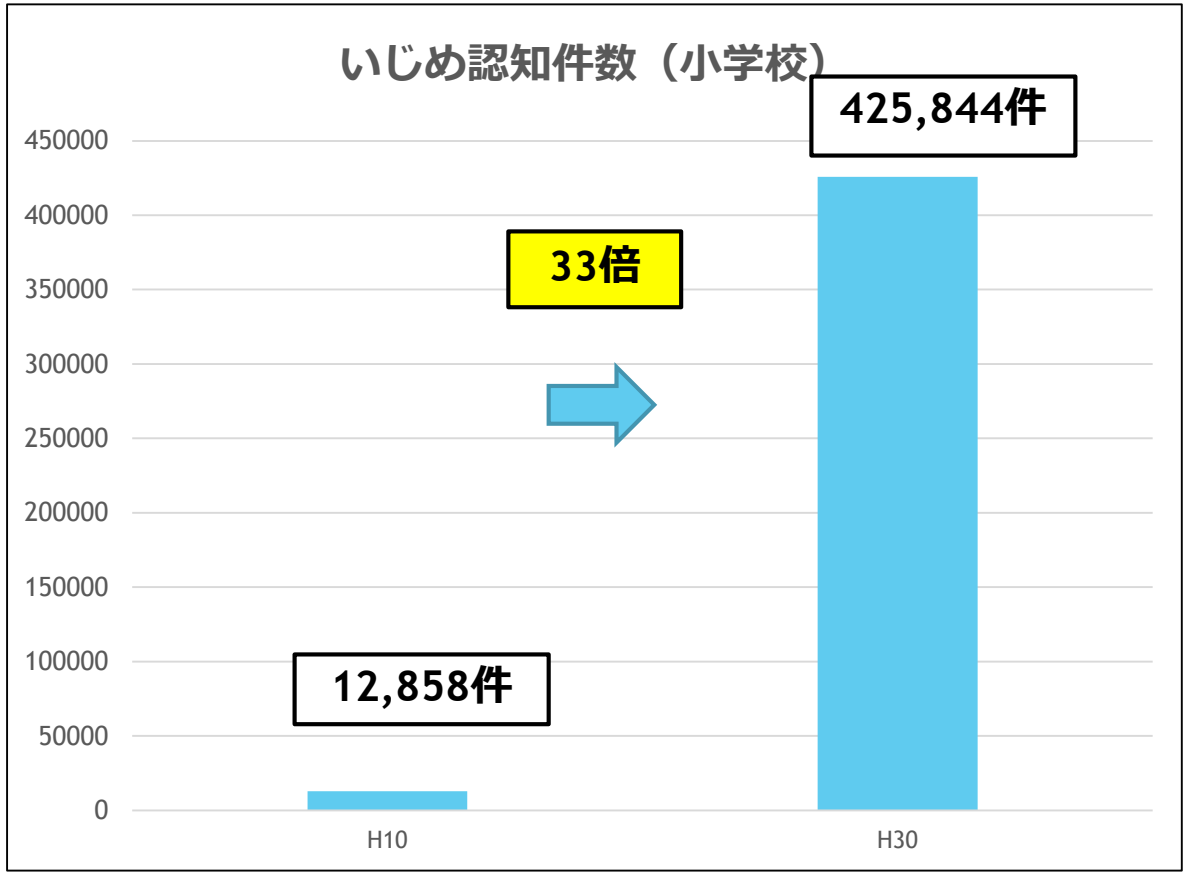
①暴力行為

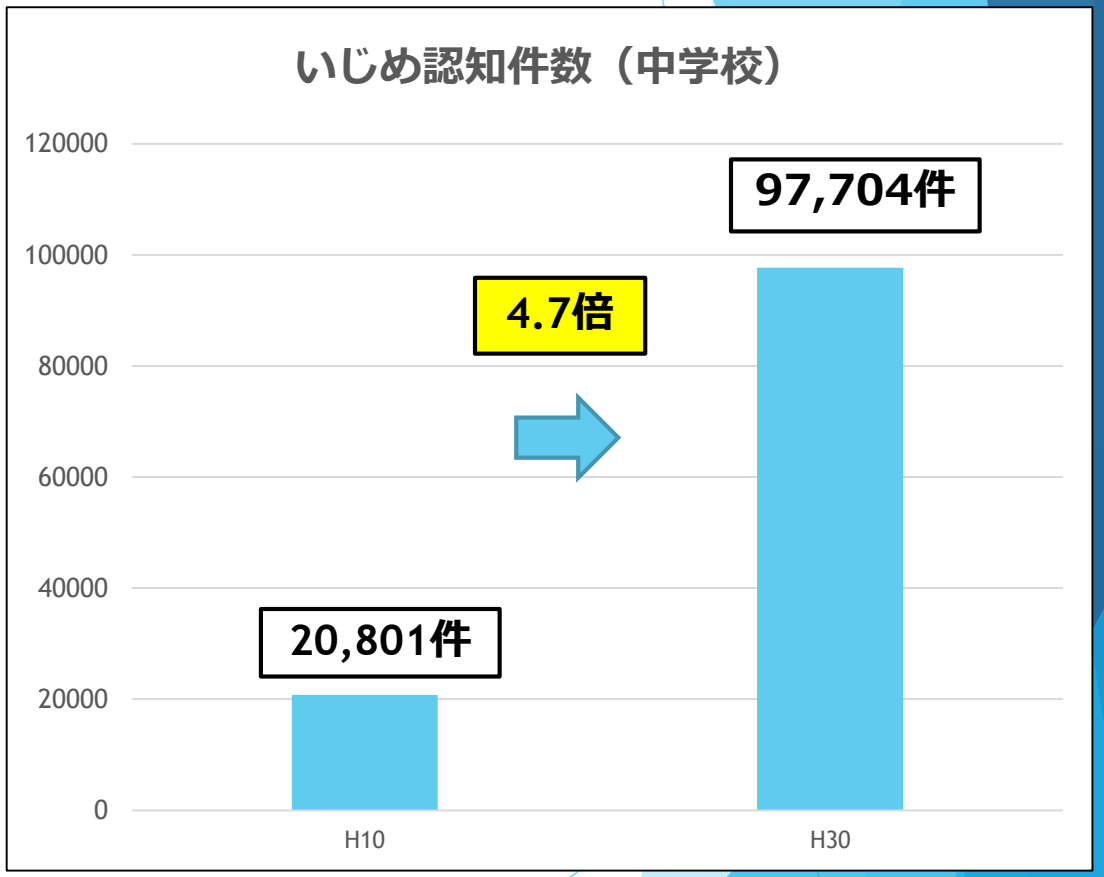




児童生徒の問題行動・不登校等　生徒指導上の課題に関する調査結果について（報告）R1.10.17　文部科学省より

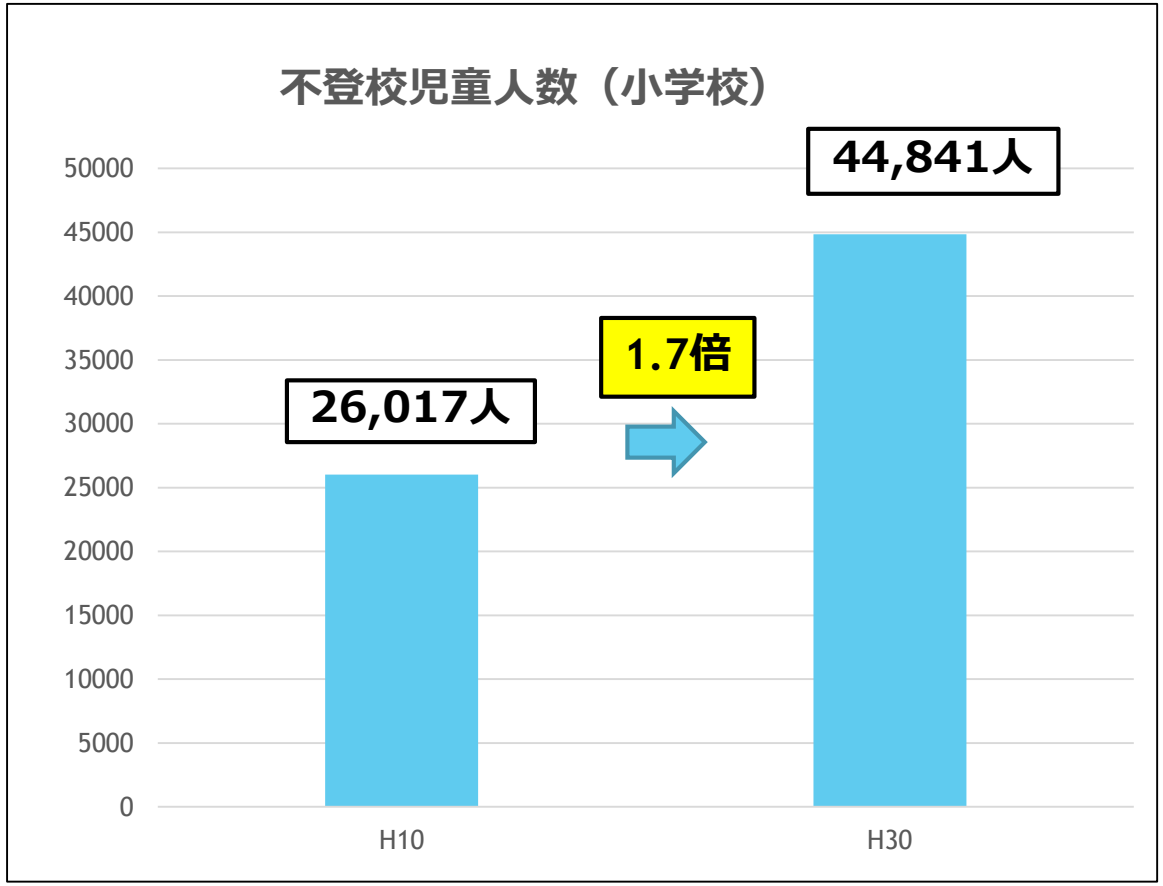
②いじめ

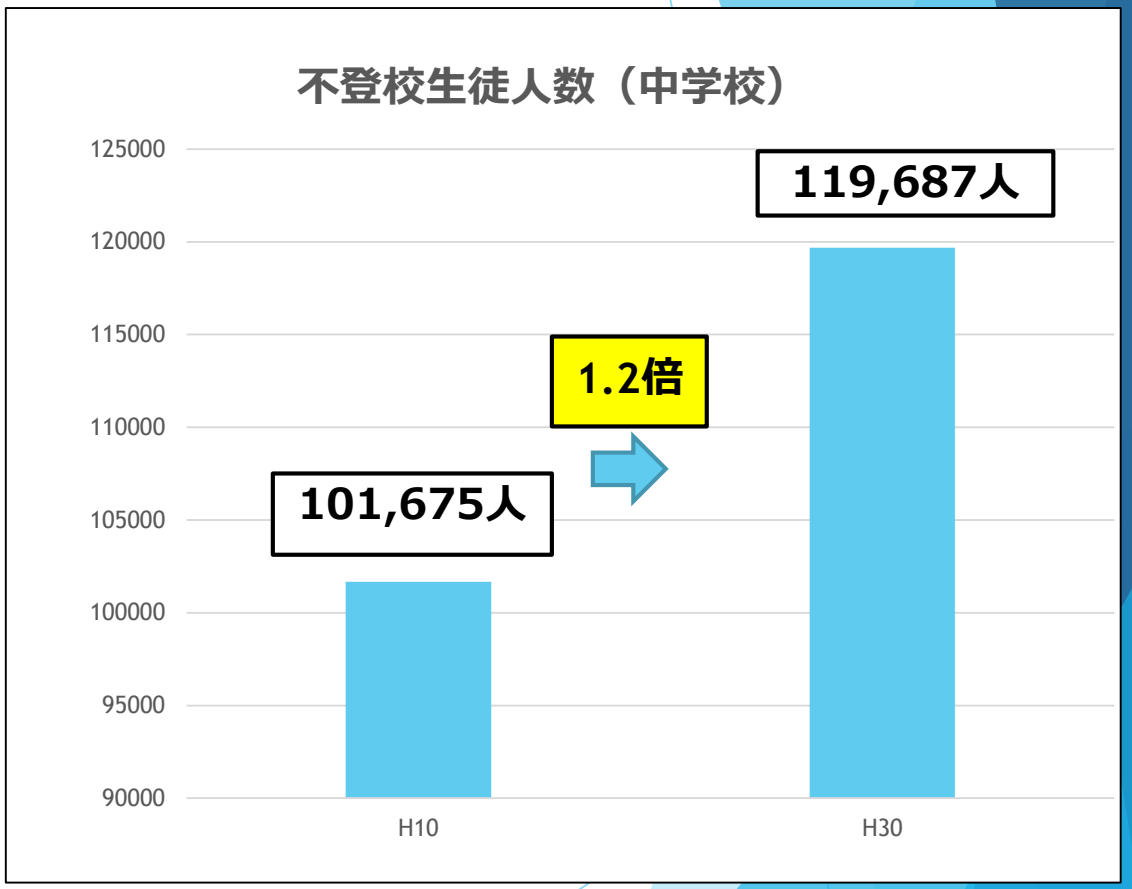




児童生徒の問題行動・不登校等　生徒指導上の課題に関する調査結果について（報告）R1.10.17　文部科学省より

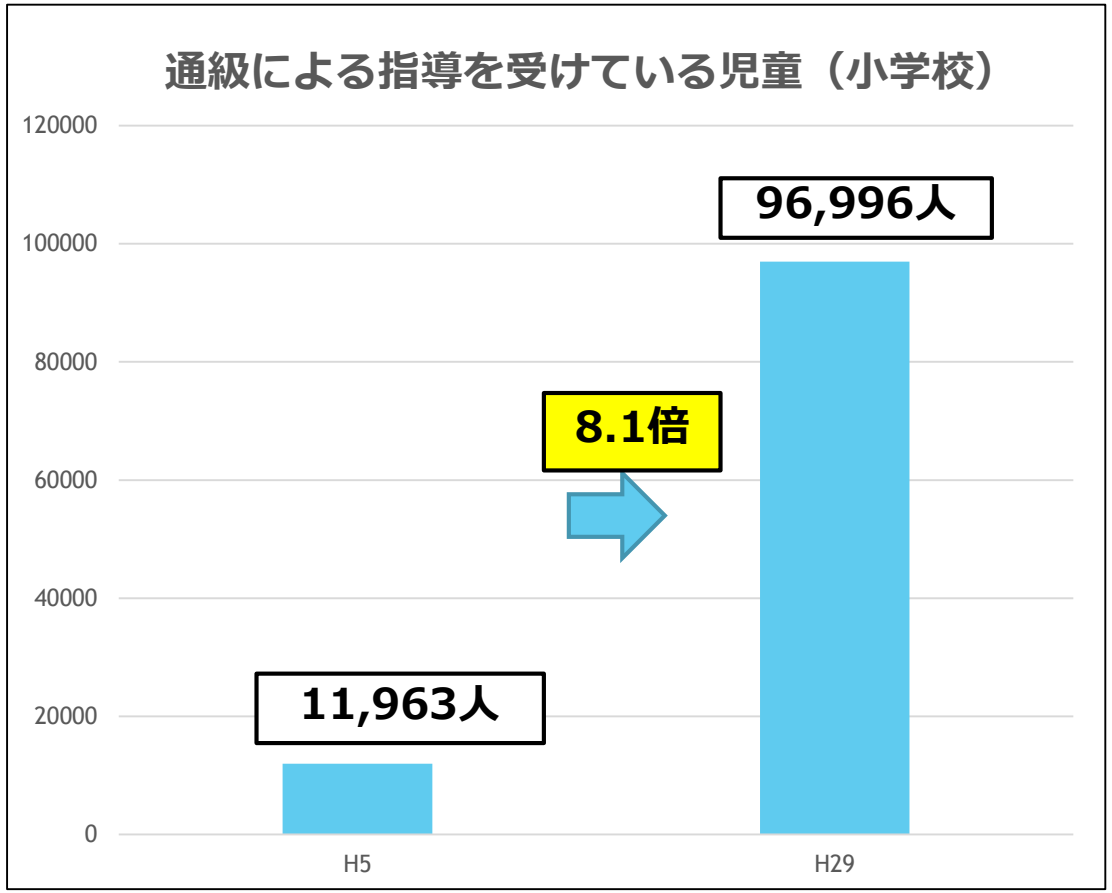
③不登校

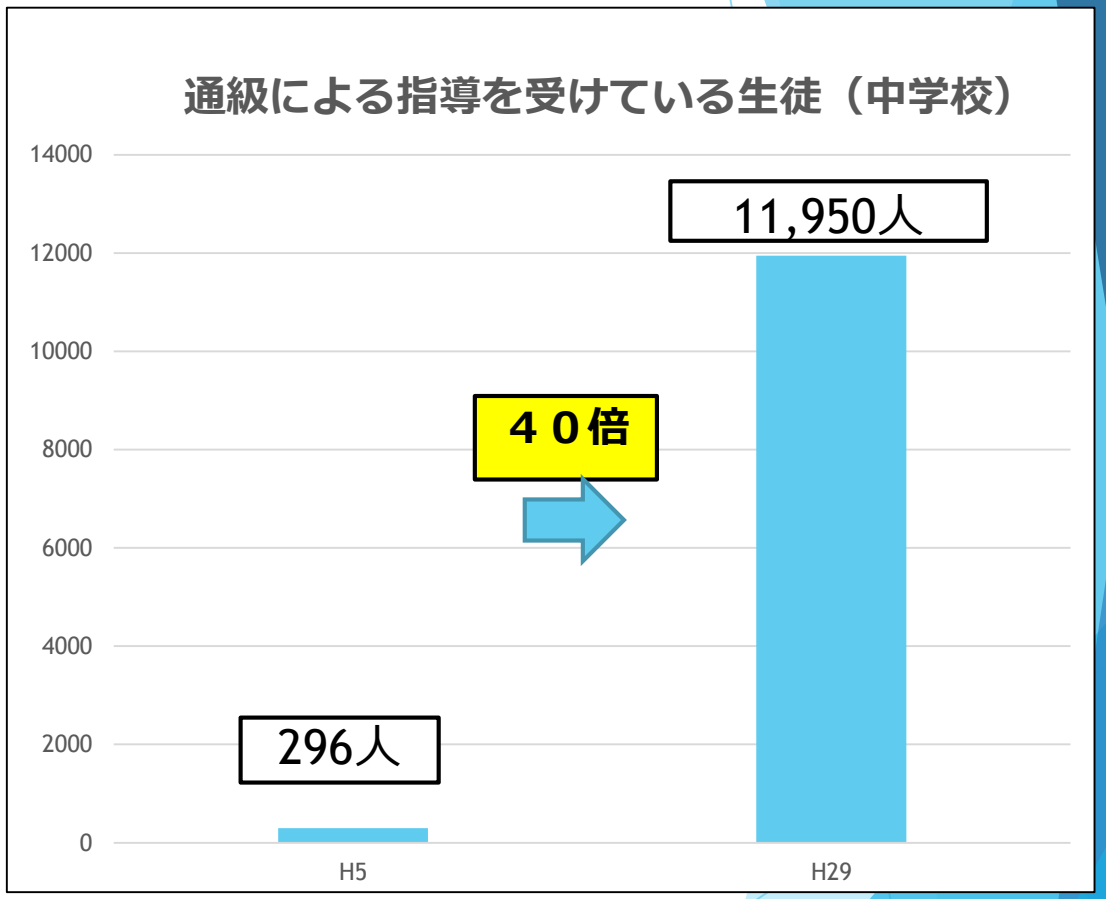




児童生徒の問題行動・不登校等　生徒指導上の課題に関する調査結果について（報告）R1.10.17　文部科学省より

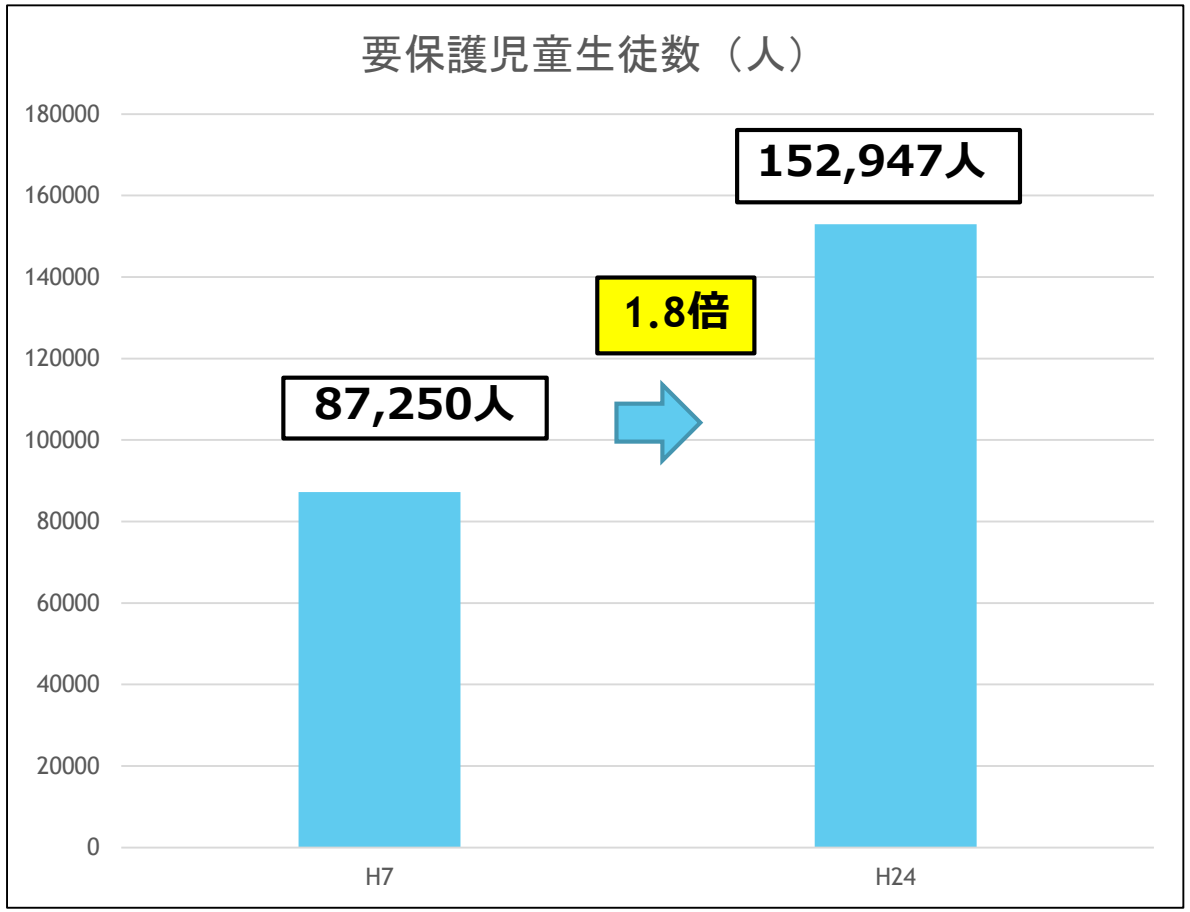
④特別な支援を要する児童生徒

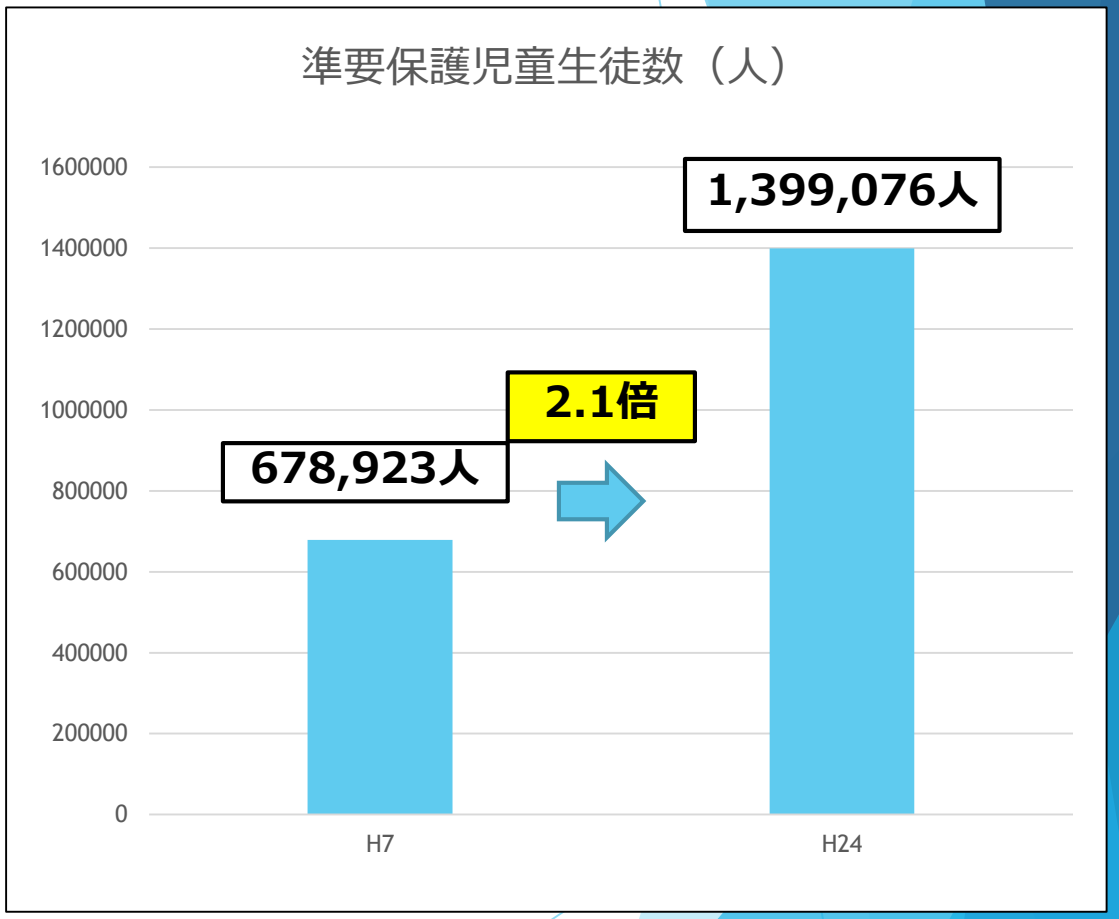




平成29年度通級による指導実施状況調査結果　文部科学省

⑤家庭における課題





就学援助実施状況等結果（文部科学省）

⑥教職員の勤務にかかる課題

【現状】
○超過勤務が常態化
●平日１日勤務時間　11時間15分（小学校）、11時間32分（中学校）
●過労死ライン超え　３割（小学校教員）６割（中学校教員）
（平成28年度教員勤務実態調査から）
→強いストレス、精神疾患
→教員志願者が激減
令和元年度教員採用試験倍率　1.8倍（新潟）1.9倍（福岡）2.0倍（長崎）
【要因】
○授業内容増と週授業時数の増加　28時間→ 29時間→ 30時間
（１日７時間授業の実施も（授業時数確保のため））
○生徒指導にかかる時間の増加
○学校内の教員数減に伴う校務量（分掌）の増加
【結果】
○人材育成が進まない

「チーム学校」への取組

過去の学校

校長　教頭　養護　事務

教諭

校務員

学習指導や生活
指導等の直接指導

今の学校

校長　教頭　養護　事務

教諭

スクールカウンセラー

スクールソーシャルワーカー
こども・家族の抱える課題解決を福祉の専門家

ＩＣＴ支援員

部活動支援員（中）

介助員（生活支援員）

放課後学習支援員

スクールロイヤー（弁護士）

校務員

ＡＬＴ（外国語指導助手）

打合せ・指示・
連絡等

- 学習指導支援
- 外部関係機関への対応
- 特定の課題への解決支援
- 校長・教頭・教諭の指示を受け対応

※学校が担う課題の増加により、地域の拠点校に専門スタッフを配置する例が多い

これからの教育活動を展開するために望ましい学習規模

① １学年あたりの学級数
② １学級あたりの児童生徒数
③ １学校あたりの教職員数

学年	年齢区分（R2.4.1現在）	人数	小学校								
			西脇小	重春小	日野小	比延小	双葉小	芳田小	楠丘小	桜丘小	計
中3	14歳児	331	80	129	32	27	3	12	27	21	331
中2	13歳児	351	69	146	45	26	1	14	23	27	351
中1	12歳児	346	50	149	46	25	5	11	32	28	346
小6	11歳児	363	75	130	43	31	1	19	28	36	363
小5	10歳児	333	62	151	48	22	1	11	28	10	333
小4	9歳児	356	68	148	30	21	6	18	42	23	356
小3	8歳児	333	63	152	38	21	3	16	27	13	333
小2	7歳児	304	61	120	36	25	0	13	34	15	304
小1	6歳児	321	76	123	33	23	6	13	30	17	321
年長	5歳児	295	62	152	28	13	0	6	19	15	295
年中	4歳児	318	77	121	34	16	5	20	24	21	318
年小	3歳児	301	79	125	28	17	1	11	24	16	301
	2歳児	265	68	115	25	10	3	11	18	15	265
	1歳児	239	59	112	22	9	3	8	19	7	239
	0歳児	212	55	80	30	7	1	9	17	13	212
	計	4,668	1,004	1,953	518	293	39	192	392	277	4,668

複式学級になるということ

●編制基準
　２学年の児童で編制する学級の標準：１６人
　（第１学年が含まれる場合は８人）
●課題
　１人の担任が２学年の児童生徒を担任し授業
　→担任負担増、学習が深まらない、人間関係の固定化
●将来複式学級となる可能性のある学校
　双小　比小　芳小　桜小　　（楠小）

学年単学級になるということ

【現在の学級編制基準】
小学校１年生・・35人、２～６年生・・40人（兵庫県は２～４年生までも35人）
中学校・・・40人
【単学級（クラス替えがないこと）のデメリット】
●人間関係や形成集団の固定化。
●同年齢集団内における多様な活動の制限。行事等での切磋琢磨が期待できない。
●多様な形態による学習活動が行えない。学習が深まらない。
●教員一人で学年運営→学年校務の負担大

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年
西小	３５	２９	３０	３２	２８	３７
重小	２９	３５	２９	３４	３４	３１
日小	２４	２７	２９	２９	２２	３５
比小	２２	２４	１８	１５	２１	２７
双小	8	6		１３	4	
芳小	１３	１４	１４	１７	１１	１９
楠小	２６	２９	２６	１９	２３	２８
桜小	１７	１４	１２	２０	１０	３４

学年	１年	２年	３年
西中	３１	３６	３５
東中	２７	２６	２８
南中	３６	３８	３５
黒中	２８	２３	２３

１学級あたりの人数
(R2.06.01現在)

西脇市の小学校の児童数・学級数・教員数

学校名	児童数（人）	学級数	教員数（基準）	その他の職員
双　小	３１	４（4・0）	5	校１　頭１　養１　事１
芳　小	９２	８（6・2）	9	校１　頭１　養１　事１
桜　小	１１１	８（6・2）	9	校１　頭１　養１　事１
比　小	１３９	９（6・3）	１０	校１　頭１　養１　事１
楠　小	１８０	９（7・2）	１０	校１　頭１　養１　事１
日　小	１９６	１１（7・4）	１２	校１　頭１　養１　事１
西　小	４０７	１６（12・4）	１８	校１　頭１　養１　事１
重　小	７８６	２８（24・4）	３１	校１　頭１　養１　事２

双小　複式学級　４cl（１・４年単式、２～３年及び５～６年複式
芳小・桜小・比小・・学年１学級（概ね１学年10～20人台）
楠小・日小・・１学年のみ２学級、他の学年は１学級
（概ね１学年20人～30人台）

西脇市の中学校の生徒数・学級数・教員数

学校名	生徒数（人）	学級数	教員数（基準）	その他の職員
西　中	３０８	１１（9・2）	１７	校１　頭１　養１　事１
東　中	０８７	０５（3・2）	8	校１　頭１　養１　事１
南　中	４４７	１５（12・3）	２２	校１　頭１　養１　事１
黒　中	１５６	０８（6・2）	１３	校１　頭１　養１　事１

教員数・生徒数が減少した場合の問題点

●授業指導に課題が生じる

例）中学校において、３～４学級の場合・・・教員の定数は７名（教頭除く）
【課題】
●免許外申請（教科免許を有しない教員による臨時的指導）の必要
（教科数：国・社・数・理・英・音・美・保体・技術・家庭　10教科）
→教科に関する専門性のある教員による指導が損なわれる
●加配の非常勤講師による授業
→種々の制約あり課題
●同一教員が３学年指導することで評価の固定化（多様な視点による評価が行いにくい）
●教員一人当たりの負担増

●多様な学習選択（活動の場）の制限

●多様な魅力ある中学校部活動への弊害
・部活動数の減少

西脇中	：男子部５	女子部５	共通部４	計14部
西脇東中	：男子部２	女子部２	共通部３	計７部
西脇南中	：男子部７	女子部５	共通部２	計14
黒田庄中	：男子部４	女子部３	共通部１	計８部

・指導体制の脆弱化（複数指導が行えない、安全確保に課題）
・部員数減少（合同部活動）
●小学校クラブ活動維持が困難となる（比小鼓笛隊・西小オーケストラ部）

集団のなかでこそ学べること

小さな社会「学級」での集団生活を通して社会を生き抜くための力を育てる

学校の役割

子どもたちの学びのための学校

地域の子どもは地域で守るための学校

地域づくりの拠点としての学校